

高知県感染症発生動向調査(週報)

2011年第28週[7月11日～7月17日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/
E-mail: kansen@ken4.pref.kochi.jp

県内情報

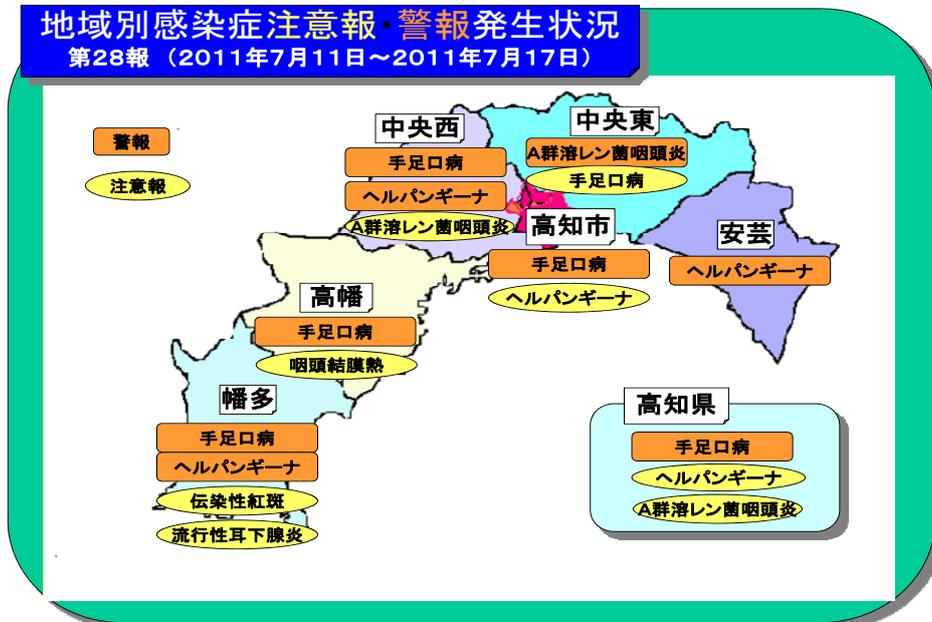
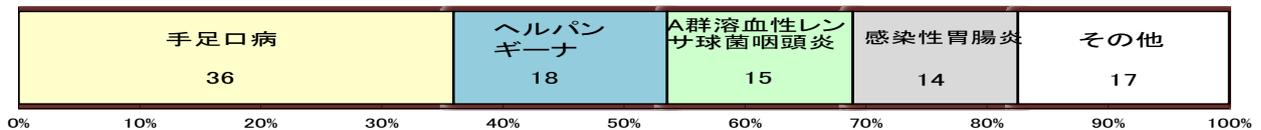
○ 患者情報総評

警報発令疾患：手足口病

注意報発令疾患：ヘルパンギーナ, A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

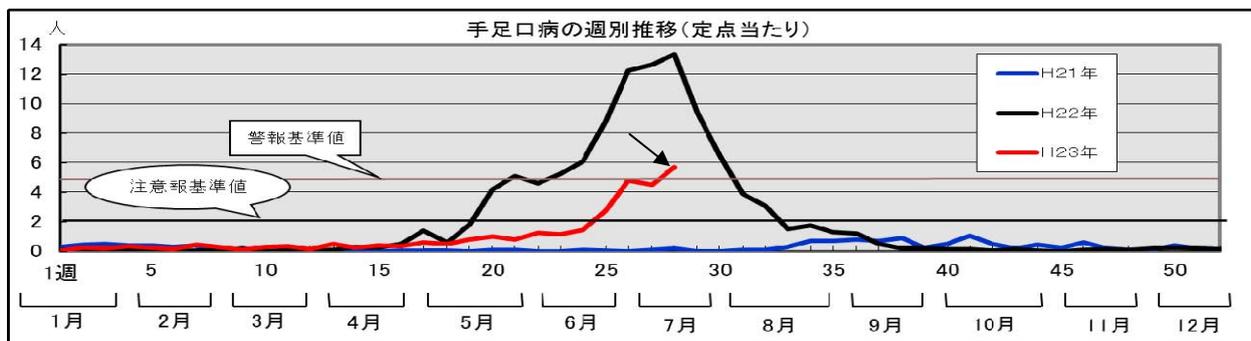
- 8日に四国地方は梅雨明けとなり、これから夏本番を迎える。体調管理や熱中症に気をつけたい。
- 手足口病**（幡多：警報→警報，中央西：警報，高知市：注意報→警報，高幡：警報→警報，中央東：注意報→注意報）は高幡と安芸で減少したが，その他の地域で増加し，総数は再び増加した。
- ヘルパンギーナ**（幡多：警報，中央西：警報→警報，安芸：注意報→警報，高知市：注意報）は幡多，高知市，安芸で増加し，総数は引き続き増加した。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**（中央東：警報→警報，中央西：注意報）は中央東で再び急増し，警報値を越す流行が続いている。中央西では注意報値を越しているが，その他の地域では流行はみられていない。
- 咽頭結膜熱**（高幡：注意報→注意報）は夏型疾患であるが，まだ流行の兆しはみられていない。しかし高幡では前週から注意報値超しており，今後の推移が注目される。

上位疾患構成図



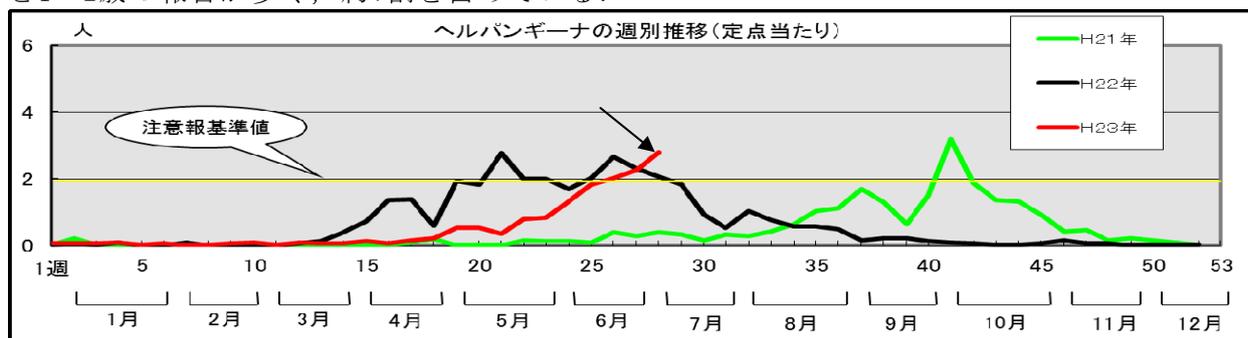
手足口病：今週 5.70 (注意報値：2.00 警報値：5.00)

総数は再び増加し，警報値を越した。地域毎にみると幡多と高幡では引き続き警報値を越している。中央西と高知市では今週警報値を越した。また，中央東でも警報値に迫る報告数となっている。年齢別にみると1～4歳が7割近くを占めている。大流行した昨年のピークは第28週(平成22年7月12日～18日)で定点当たり13.33となっており，今後の推移が注目される。



ヘルパンギーナ：今週 2.80 (注意報値：2.00 警報値：4.00)

第21週以降増加傾向となり、第26週に注意報値を超し、その後も増加が続き今週は上位第2位疾患となった。地域毎にみると中央西では減少しているが、引き続き警報値を超している。幡多と安芸では増加し、警報値を超した。高知市でも増加し、注意報値を超している。年齢別にみると1～2歳の報告が多く、約7割を占めている。



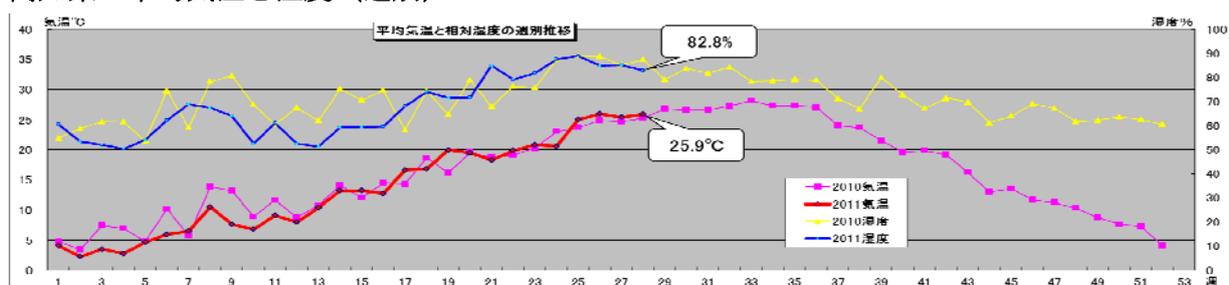
検査情報

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
27	下気道炎	4歳 女	高知市	Human metapneumovirus
27	急性上気道炎	1歳 男	高知市	Parainfluenza virus 3
27	肺炎	11ヵ月 男	中央東	Parainfluenza virus 3
28	感染性胃腸炎	11歳 女	中央東	<i>Campylobacter jejuni</i>
28	感染性胃腸炎	3歳 女	中央東	<i>Campylobacter jejuni</i>
28	マイコプラズマ肺炎	13歳 女	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
28	マイコプラズマ肺炎	4歳 男	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
28	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4歳 男	高知市	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1
27	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5歳 女	高幡	<i>Streptococcus pyogenes</i> T12

○ 全数報告の感染症情報

2類感染症：結核 7例（80代男）《高知市》（70代男，30代女）《幡多》（80代男）《須崎》（90代男）《安芸》（60代男，90代女）《中央東》（今年88例）

○ 高知県の平均気温と湿度（週別）



○ 定点からの地域ホット情報

幡多：

《さたけ小児科》：膿痂疹 3例（2歳女，1，5歳男）

高幡：

《もりはた小児科》：カンピロバクター腸炎 1例（9歳男） マイコプラズマ肺炎 2例（3歳男，6歳女）
滲出性扁桃炎（アデノウイルス） 3例（1，4，5歳）

中央西：

《石黒小児科》：インフルエンザの2例はB型陽性

《くぼたこどもクリニック》：水痘の1例は高知市 ヘルパンギーナの1例は須崎市，1例は高知市
手足口病の1例は香南市，1例は須崎市 感染性胃腸炎の1例は須崎市

高知市：

《けら小児科・アレルギー科》：マイコプラズマ肺炎 2例（12，14歳女）
アデノウイルス扁桃炎 4例（3～6歳男）

中央東：

《あけぼの小児クリニック》：マイコプラズマ肺炎 1例（9歳男）

《早明浦病院小児科》：発熱を伴う手足，口唇，口蓋等に発疹の出現する病態再び増多
手足口病，ヘルパンギーナとして報告している

全国情報第26週（6/27～7/3）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核379例

3類感染症：細菌性赤痢3例、腸管出血性大腸菌感染症63例（有症者44例、うちHUS 1例）、腸チフス1例

4類感染症：E型肝炎1例、A型肝炎1例、つつが虫病4例、日本紅斑熱8例、レジオネラ症20例

5類感染症：アメーバ赤痢8例、ウイルス性肝炎4例（B型3例、サイトメガロウイルス1例）、急性脳炎1例、
クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例、後天性免疫不全症候群13
例（AIDS 1例、無症候12例）、ジアルジア症1例、髄膜炎菌性髄膜炎1例、梅毒7例、破傷風1例、
風しん6例、麻しん13例

報告遅れ：日本紅斑熱1例、レジオネラ症1例、急性脳炎1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例

◆手足口病

手足口病（hand, foot, and mouth disease：HFMD）は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス性感染症であり、乳幼児を中心に主に夏季に流行する疾患である。臨床的特徴としては、通常は感染から3～5日の潜伏期間の後に、口腔粘膜、手掌、足底や足背などの四肢末端に2～3mmの水疱性発疹が出現する。発熱は約3分の1に認められるが微熱であることが多く、高熱が続くことはあまりない。基本的には数日間の内に治癒する予後良好の疾患であるとされている。しかし稀ではあるが、髄膜炎、小脳失調症、脳炎などの中樞神経系の合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を呈することが以前より知られている。

病原ウイルスは主にコクサッキーA16（CA16）、エンテロウイルス71（EV71）であり、その他CA6、CA9やCA10などのエンテロウイルスによっても発症する。手足口病の感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、保育園や幼稚園などの乳幼児の集団生活施設における感染予防は手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本となる。手足口病の病原ウイルスに感染しても全員が典型的な症状を呈するものではなく、不顕性感染例も存在することから、発症して診断された者を隔離しても効果的な対策とはならないと考えるべきである。また、主要症状が回復した後も比較的長期間にわたって児の便などからウイルスが排泄されることがあるが、基本的には軽症疾患であることを踏まえ、回復した児に対して長期間の欠席を求めることは現実的ではない。

手足口病は例年4月頃から患者数が増加し始め、流行のピークは7月の中旬か下旬となり、8月に入ると減少していく、という経過を辿る。

感染症発生動向調査では、全国約3,000カ所の小児科定点からの報告に基づいて手足口病をはじめとする各種小児科疾患の発生動向を分析している。手足口病の報告数は2011年第19週以降増加が続いており、第26週の定点当たり報告数は7.2（報告数22,506）と前週（定点当たり報告数4.27）よりも大きく増加し、1982年に同調査が開始されて以来では、1995年の第28週（定点当たり報告数7.7）に次いで多い値となった。都道府県別では佐賀県（38.4）、福岡県（31.6）、愛媛県（27.2）、熊本県（26.4）、山口県（22.6）、徳島県（21.9）、長崎県（19.3）、島根県（17.1）、兵庫県（14.6）、香川県（13.2）の順となっており、岩手県を除く46都道府県で前週の報告数よりも増加がみられている。手足口病の流行は中国、四国、九州の地域で大きく、定点当たり報告数の全国平均値を上回っているのは福井県、滋賀県と、この2県よりも西側の府県のみである。2011年第1～26週の定点当たり累積報告数は21.01（累積報告数65,843）であり、年齢群別では0～1歳の報告割合が40.3%と例年と比べて高い割合となっている。

手足口病の原因ウイルスは、CA16とEV71が代表的であるが、2011年は現時点（2011年7月6日現在）では総検出報告数は126件と少ないものの、CA6が患者から検出されたウイルスの半数以上を占めている。これまでのところ、手足口病の流行は西日本を中心に急速に拡大してきている。臨床現場からは本年の手足口病は、従来の典型例と比べて発疹が大きく、四肢末端に限局せず広く範囲に認められる症例が目立つとの情報も寄せられている。2011年の手足口病の定点当たり報告数は、間もなく夏季の流行のピークを迎えるものと推察される。今後も流行の拡大には注意が必要である。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(27週)	高知県(28週末累計) H23/1/3~H23/7/17
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ			1	2			3 (0.06)		270 (0.06)	12,335 (256.98)
小児科	咽頭結膜熱		2	1		4	1	8 (0.27)	11 (0.37)	2,461 (0.78)	179 (5.97)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	52	9	7	1	3	73 (2.43)	65 (2.17)	4,407 (1.40)	1,558 (51.93)
	感染性胃腸炎	4	9	39	7	3	3	65 (2.17)	79 (2.63)	10,764 (3.43)	6,078 (202.60)
	水痘	3	2	12	5		5	27 (0.90)	26 (0.87)	3,989 (1.27)	1,270 (42.33)
	手足口病	1	34	64	19	11	42	171 (5.70)	134 (4.47)	30,506 (9.72)	877 (29.23)
	伝染性紅斑		2	10			6	18 (0.60)	7 (0.23)	2,960 (0.94)	240 (8.00)
	突発性発疹	1	4	7	2		1	15 (0.50)	12 (0.40)	2,298 (0.73)	403 (13.43)
	百日咳									93 (0.03)	11 (0.37)
	ヘルパンギーナ	10	4	24	15	1	30	84 (2.80)	68 (2.27)	10,708 (3.41)	444 (14.80)
	流行性耳下腺炎		1	2			5	8 (0.27)	13 (0.43)	3,599 (1.15)	218 (7.27)
	RSウイルス感染症									411 (0.13)	557 (18.57)
眼科	急性出血性結膜炎									518 (0.76)	(0.00)
	流行性角結膜炎								3 (1.00)	510 (0.75)	28 (9.33)
基幹	細菌性髄膜炎									14 (0.03)	2 (0.29)
	無菌性髄膜炎			2				2 (0.29)		22 (0.05)	13 (1.86)
	マイコプラズマ肺炎			2				2 (0.29)	2 (0.29)	296 (0.65)	57 (8.14)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								1 (0.14)	10 (0.02)	6 (0.86)
計 (小児科定点当たり人数)		20 (10.00)	110 (15.71)	173 (15.34)	57 (18.73)	20 (10.00)	96 (19.20)	476 (15.70)			
前週 (小児科定点当たり人数)		18 (9.00)	77 (11.00)	166 (14.55)	47 (15.67)	36 (18.00)	77 (15.40)		421 (13.83)	73,836	24,276 (651.48)

定点当たり

第28週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(27週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ			0.06	0.40			0.06		0.06
小児科	咽頭結膜熱		0.29	0.09		2.00	0.20	0.27	0.37	0.78
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	7.43	0.82	2.33	0.50	0.60	2.43	2.17	1.40
	感染性胃腸炎	2.00	1.29	3.55	2.33	1.50	0.60	2.17	2.63	3.43
	水痘	1.50	0.29	1.09	1.67		1.00	0.90	0.87	1.27
	手足口病	0.50	4.86	5.82	6.33	5.50	8.40	5.70	4.47	9.72
	伝染性紅斑		0.29	0.91			1.20	0.60	0.23	0.94
	突発性発疹	0.50	0.57	0.64	0.67		0.20	0.50	0.40	0.73
	百日咳									0.03
	ヘルパンギーナ	5.00	0.57	2.18	5.00	0.50	6.00	2.80	2.27	3.41
	流行性耳下腺炎		0.14	0.18			1.00	0.27	0.43	1.15
	RSウイルス感染症									0.13
眼科	急性出血性結膜炎									0.76
	流行性角結膜炎								1.00	0.75
基幹	細菌性髄膜炎									0.03
	無菌性髄膜炎			0.40				0.29		0.05
	マイコプラズマ肺炎			0.40				0.29	0.29	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								0.14	0.02
計 (小児科定点当たり人数)		10.00	15.71	15.34	18.73	10.00	19.20	15.70		
前週 (小児科定点当たり人数)		9.00	11.00	14.55	15.67	18.00	15.40		13.83	

2011年週報推移(定点当たり)

